MAEDA Shinjiro works 1990 - 2019

Single channel selected works 1990-2019

90s 7 works

01 20
02 FORGET AND FORGIVE
03 VIDEO SWIMMER IN BLUE
04 TELEVISION BY VIDEO BY TELEVISION
05 L
06 Braille
07 王様の子供 | The King's Children

Feature film 01

オン | ON

00s 8 works

01 on02
02 中也を想い、サンボする | I do sambo, thinking of Chuya
03 映像版「極東の架空の島の唄」| a video sketch "Songs of Imaginary Far East Islands"
04 Wedding 結縁
05 BETWEEN YESTERDAY & TOMORROW #01 SAWANO-IKE
06 BETWEEN YESTERDAY & TOMORROW #02 Tokyo Tower
07 BETWEEN YESTERDAY & TOMORROW #03 The Diet Building
08 星座 constellation

Feature film 02

日々 "hibi" 13 full moons | "HIBI" 13 full moons

10s 4 works

01 BETWEEN YESTERDAY & TOMORROW #06 ITO-kun
02 日々 "hibi"AUG［2008-2015］《天皇考》| "HIBI"AUG [2008-2015]
《THINKING ABOUT THE EMPEROR》
03 住宅街 | residential area
04 BETWEEN YESTERDAY & TOMORROW Omnibus 2011/2016

90s 7 works

01	20	5'
02	FORGET AND FORGIVE	14'
03	VIDEO SWIMMER IN BLUE	12'
04	TELEVISION BY VIDEO BY TELEVISION	5'
05	L	25'
06	Braille	11'
07	王様の子供 | The King's Children	40'

01 *90s 7 works*

20

1990 /VHS-video /5’

Sound : Mahito TAKEUCHI, Takashi YAMAMOTO

[Premiere] イメージフォーラム・シネマテーク

［ヤング・パースペクティブ 1991］

第 1 回ふくい国際青年メディアアートフェスティバル (1991)

02 *90s 7 works*

FORGET AND FORGIVE

1991 /VHS-video /14’

Sound : Mahito TAKEUCHI

[Premiere] イメージフォーラム・フェスティバル 1992

［エクスペリメンタル・イマジネーション賞］

第 2 回ふくい国際青年メディアアートフェスティバル (1992)

03 *90s 7 works*

VIDEO SWIMMER IN BLUE

1992 /VHS-video /12’

[Premiere] イメージフォーラム・フェスティバル 1993

［ビデオ・オリジナリティ賞］

日本実験映像 40 年史 /KIRIN PLAZA OSAKA (1994)

up-and-coming Film Festival, Hannover（ドイツ・1995)

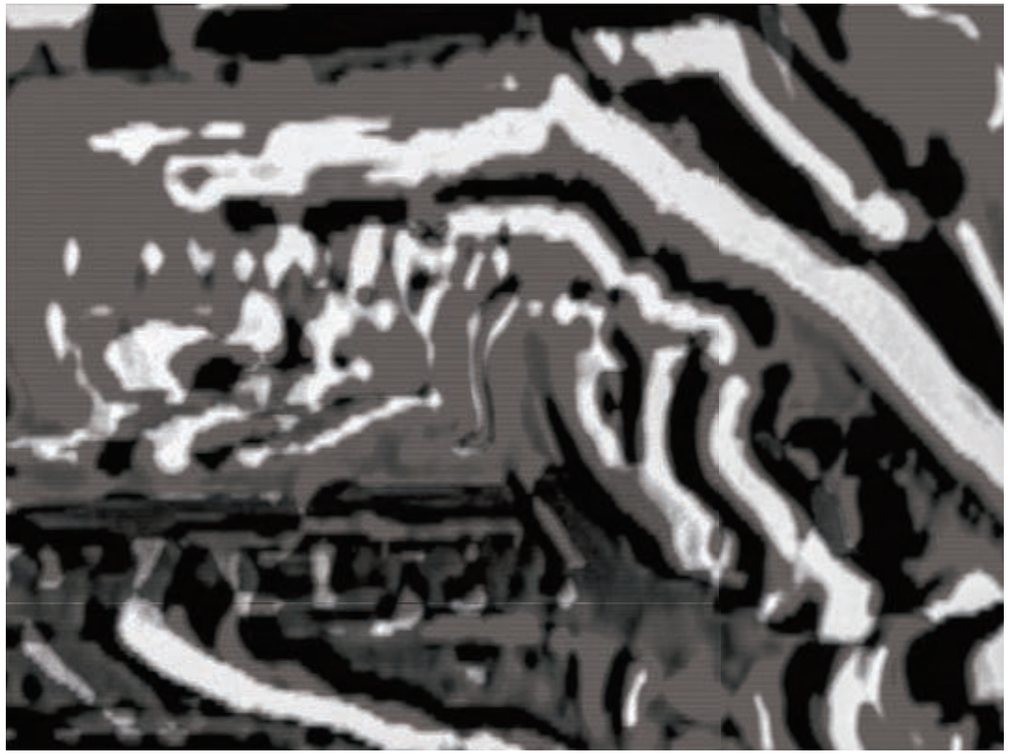
RETINA IV［審査員特別賞］（ハンガリー・1996)

Vanishing points /ICA, London (イギリス・1999)

KINO-VISION 2015 /Lumen gallery

コレクション：国立国際美術館

04 *90s 7 works*



TELEVISION BY VIDEO BY TELEVISION

1993 /VHS-video /5’

[Premiere] 第 3 回ふくい国際青年メディアアートフェスティバル (1993)
イメージフォーラム・シネマテーク No.813「オプト・マニエリスム」(2002)

彼の作品の表現上の特徴は , ノイズ表現あるいはシャッタースピードをコントロールしたり再撮影によるフィルム的なソフトな質感・色彩感覚にあるといえよう . もちろん , それが彼の作品の魅力の基盤である . 現代美術の考察を並行して行いながら , 映画について , ビデオ・メディアについて , そしてビデオアートに取り組む前田の姿勢は , 近年 , 希少な存在といえよう . 個体発生が系統発生を繰り返すように , 前田は自分なりに「ビデオアート」を辿り , 検証してきたように思える .

／伊奈新祐（映像作家）

リーフレット IMAGE FORUM CINEMATHEQUE SCHEDULE Vol.95
Image Forum cinematheque No.602〈前田真二郎作品集〉より (1993)

具体的な作品について触れると、まず突出していたのが前田真二郎の「TELEVISION BY VIEO BY TELEVISION」である。これはテレビのサンドストーム（野生＝非文化）をビデオフィードバックやズーミングで構成（秩序＝文化）しながら、その境界に着目しているコンセプトが断然光っており、そのインプロビゼーションのセンスも繊細で力強い。前田は前回の「FORGET AND FORGIVE」でも注目されたが、ノイズに対する共通のこだわりをふまえながら、旺盛な探求の触手を伸ばしていて、すっかり新人作家らしさが身についてきた。

／ 松本俊夫（映像作家）

第 3 回ふくい国際青年メディアアート・フェスティバル カタログ
選考委員講評「西高東低といま自覚すべきこと」より (1994)

05 *90s 7 works*

L

1995 /Hi-8 video /25’

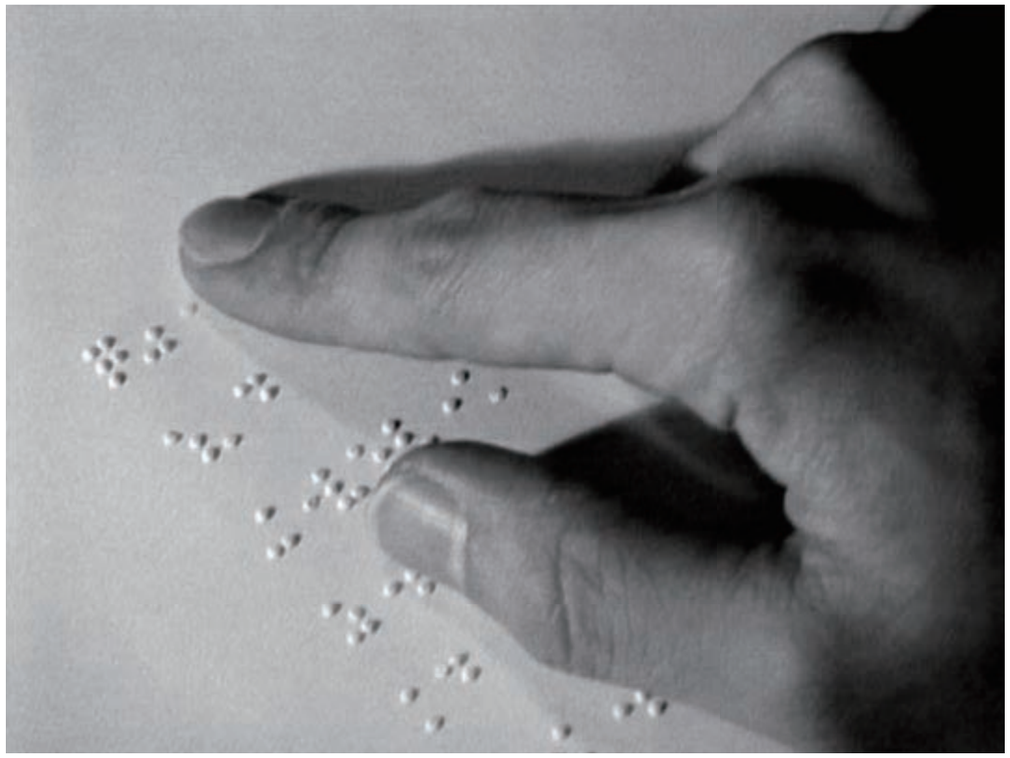
Sound : Tetsuro ISHIDA

[Premiere] イメージフォーラム・フェスティバル 1996

BORDER / なかの ZERO・山形 MUSE1(1996)

NEW SCHOOL 6 / Intercommunication center (1999)

06 *90s 7 works*



Braille

1996 /Hi-8 video /11’

Sound : Rei HARAKAMI

[Premiere] 日独メディア・アート週間 '96 / 関西ドイツ文化センター

イメージフォーラム・フェスティバル 1997

第 4 回水戸短編映画祭 / 水戸芸術館 ACM 劇場 (2000)

ARSENAL Japanese Independents Film & Video

/ Potsdam SONY CENTER (ドイツ・2000)

Visual Music with Deaf-SIGHT・サイト映像展 / 銀座ソニービル (2001)

ムービーダイバー -Walking in the Seabed- / 調布市せんがわ劇場 (2016)

07 *90s 7 works*

王様の子供 ｜ The King's Children

1998 /DV, SD-digital → 16mm film /40'
製作：愛知芸術文化センター
プロデューサー：越後谷卓司
監督：前田真二郎
出演：岩田知子　高嶺格　早川真里　田中真由美　前田征紀
衣装：COSMIC WONDER
音楽：Rei HARAKAMI

[Premiere] 第 3 回アートフィルム・フェスティバル
/ 愛知芸術文化センター (1998)
イメージフォーラム・フェスティバル 1998
ART DOCUMENTARY'98 / 広島現代美術館
第 3 回水戸短編映画祭 / 水戸芸術館 ACM 劇場 (1999)
第 13 回高崎映画祭 (1999)
At the Berlinale'99 -New Cinema from Japan（ドイツ・1999)
コレクション：愛知県美術館

愛知芸術文化センターがオリジナル映像作品として製作した前田真二郎の『王様の子供』は、一見するとユートピア的システムとその“外部”をめぐるＳＦ的寓話にみえる。豊かなテクノロジー社会とその外部の飢餓や貧困、エネルギーや資源の消費とその外部の有毒廃棄物、等々。だがここに何か現実的教訓を探し求めたりするのは見当違いだ。それらをプレテクストとして出現する“視聴覚的出来事”こそが作品の本質だからだ。《眼を使わなくても見る方法があるのを知ってる？ 耳で聞こえるものから像をつくっていくんだ。》

さまざまな映像と音によって構成された『王様の子供』は、すぐれて聴覚的な、しかもポリフォニック（多声的）な作品である。そのＳＦ的ヴィジョンは多くが“重なり合う声”によって喚起され、インナーブレイン（脳内）の映画とさえ感じさせる。男女いりまじったその声が、物語の記憶と速度を作り出している。（特に第３回アートフィルム・フェスティバルとイメージフォーラム・フェスティバル 1998 で上映されたバージョンは過剰に多声的だった。）

《ユートピアの王様が私を作りました。私の身体は太陽の光で生きる、不老不死の身体だそうです。》と一人称単数の男声で語り始める声の主は《私は四人いるの。生まれた時から私は、四つの身体と気持があるの。》（女声）という四人一体で性別もない存在であるらしい。サウンドトラックに統合されたその四つの語る声が（差異を持つ四人の映像以上に）“私”の奇妙なリアリティと混淆感覚、そして身体の希薄さを体現し強調している。《心を言葉に書き換える方法が見つかったからなんでしょ。みんな、身体が必要なくなったんだ。》

対話し合う四つの声はテレパシーのようでもある。ときに心のイメージを読み合ったりするので、声は現実には発音されない、心の声の交信なのかもしれない。つねに髪の毛で隠された目には目隠しのような飾りをつけ、彼らが盲目ないし視覚を使わずに見ることを暗示する（アリの国にたくさん生まれた“目の見えない子供たち”のように）。

前田真二郎のこれまでの作品にも、そうしたイメージと言葉の主題が含まれていた。初期から独特のクールさとメタ意識（メディアの自己言及性）の中で、見る／見られる視線の関係性など視覚に関わる観念的モチーフを扱う作家だったが、ほとんど字幕だけで“私”という非人称的存在（「私は光、私は言葉」）を実現させイメージと言葉の関係を体験的に考えさせた力作『Ｌ』（95 年）や点字発明者ルイ・ブライユのエピソードと点字を視覚作品の中で扱う逆説的な（盲者には作品が見えず、点字の映像も触れない）『Braille』（97 年）等が特にこの作品とつながる。

《この世界は、言葉とタンパク質でできている。》前田真二郎のメタ意識からすれば、《体を持たない》ユートピアの王様が自分（の仮の姿）に似せて作った子供たち、自分の記憶も消せるし何度でも生き直せる（生をリセットできる）この主人公たちとは、作者と作中人物の隠喩とも取れるし、おはなしすべてが虚構（退屈な子供たちのフィクションごっこ）とも取れなくはない。

いずれにせよ、その希薄な身体感覚を視覚化し、《何をして過ごしたらいいのか途方に暮れている》この虚無的な被造物（クリーチャー）たちの《気分の晴れない、せつない気持》を視覚化する上で、画面外の声の活用と並んで、ポストプロダクションでの映像素材の加工処理も大きな役割を果たしている。おそらくデイヴィッド・ブレアの『WAX』（91 年）のようにデジタル編集のプロセスで物語は再編され発展していっただろう。音と映像もたえず分断され組み直されたはずだ。デジタルビデオで撮影され、コンピュータに取り込んでノンリニア編集、最後に映画にキネコ変換されたこの作品の手法は、そのために必然的なものだったといえる。

／西嶋憲生（映像研究家）

愛知芸術文化センター 情報誌 AAC Vol.25 (1998) より

オン | ON

2000 /DV, SD-digital /72’

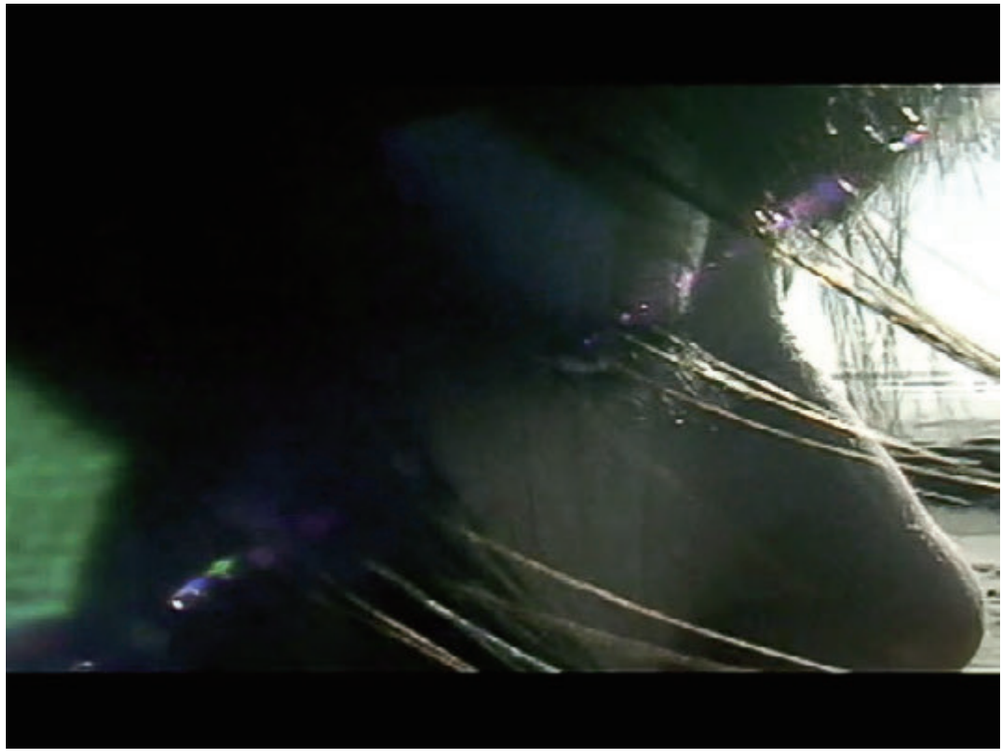
若者をとりまく複数の日常を注視する「まなざし」は旅をすることによって、
中心のない平行的に紡がれる世界を関係づける。
そこでは何も起こらずただ彼らは移動することにより風景に溶け込んでいく。
登場人物は誰も言葉を口にしない。同時録音素材とミックスされた音響は、
映像と渾然一体となってシークエンスを形成していく。

／映像レーベル「ソルコード」DVD[SC-001]「オン」より

それが、作為なのか無作為なのか…なんて事は既にどうでもいい事に思えてくる。
そこには、確かに光に照らし出されているモノが在って、当然の事ながら、
僕達にはそこに照らし出されたモノしか見る事は出来ない。そう気付いた途端に、
どうしても見えないモノだって確かに在るのだ、という事に改めて気付かせられる。
この作品を見ながら、確かに僕は今、こうして生きていると同時に、確実に死に
向かっているんだなあ、なんて考えてました。

／レイ・ハラカミ（音楽家）

Feature film 01



オン | ON

2000 /DV, SD-digital /72’

製作：SOL CHORD cos TONE

撮影・編集：木村隆志　前田真二郎

監督：前田真二郎

出演：岩田知子　澤田久美子　伊藤寛隆　飯野健一　早川真里　有馬徹
加藤祐基　坂井理笑　川北佳代子　田辺裕之　井上智子　井上凛

[Premiere] イメージフォーラムフェスティバル 2000

第 24 回香港国際映画祭 /Hong Kong Art Centre (香港・2000)

ARSENAL Japanese Independents Film & Video
/ Potsdam SONY CENTER (ドイツ・2000)

映像レーベル「ソルコード」DVD[SC-001] 発行 : Nard,Over Clouded (2005)

00s 8 works

01	on02	5'
02	中也を想い、サンボする ｜ I do sambo, thinking of Chuya	10'
03	映像版「極東の架空の島の唄」a video sketch “Songs of Imaginary Far East Islands”	20'
04	Wedding 結縁	15'
05	BETWEEN YESTERDAY & TOMORROW #01 SAWANO-IKE	10'
06	BETWEEN YESTERDAY & TOMORROW #02 Tokyo Tower	5'
07	BETWEEN YESTERDAY & TOMORROW #03 The Diet Building	5'
08	星座 constellation	20'

前田さんの作品を通じて考えることは、「見ること」には、常に「見られること」が含まれているということの表象の追及ではないかと思います。前田さんが美術というコンテクストを出自として自覚されていることが、まさに「見ること」よりも「見られること」の現在に接続しているような気がします。僕は、今日全体のプログラムを見て、そんなことを考えました。

／松井茂（詩人）

あいちトリエンナーレ主催 ALA-SCOPE02
映像レーベル・ソルコードの作家たち〈前田真二郎特集上映〉
上映後のトーク・セッションより（2016)

01 *00s 8 works*

on02

2003/DV, SD-digital /5’

[Premiere] indies film nagano fes.2004 / neon hall

ARS ELECTORONICA –Movie Line / Moviement(オーストリア・2004)

映像レーベル「ソルコード」DVD[SC-001] 発行 : Nard,Over Clouded (2005)

New Adventures in Narratives, Ecstasies. / 京都芸術劇場 (2012)

02 *00s 8 works*

中也を想い、サンボする｜I do sambo, thinking of Chuya
2006 /DV, SD-digital /10’
製作：山口情報芸術センター［YCAM］
出演：鈴木悦久　三宅ヤスコ

[Premiere] IMAGINARY CHUYA・映像としての中也のことば
/ 山口情報芸術センター［YCAM］(2006)
DVD+BOOK「IMAGINARY CHUYA・映像としての中也のことば」
発行：山口情報芸術センター［YCAM］(2007)

03 *00s 8 works*

映像版「極東の架空の島の唄」

a video sketch “Songs of Imaginary Far East Islands”

2007 /FHD-digital /20’

製作：ナヤ・コレクティブ

監督：前田真二郎

撮影：池田泰教　齋藤正和　前田真二郎

録音：ウエヤマトモコ

作曲：三輪眞弘　方法マシン　時間旅行楽団　teamSZK

演奏：方法マシン　時間旅行楽団　teamSZK　西陽子

協力：" 手順派 " 合同祭「極東の架空の島の唄」

IAMAS HD contents making project

[Premiere] Prix Ars Electronica [Masahiro Miwa Golden Nica]

/ OK Center(オーストリア・2007)

Sound & Vision 2007 vol.2 / ZAIM yokohama(2007)

三輪眞弘「逆シミュレーション音楽の世界」/ 岐阜県美術館 (2013)

04 *00s 8 works*

Wedding 結縁｜ Wedding
2007 /DV, SD-digital /15’
Sound : Shimae
製作：SANO GALLERY（オムニバス映画「Pahenlo」）

Sound & Vision Vol.3 “Reflect”/ZAIM yokohama(2008)
松代現代美術フェスティバル Asian Art Film Program(2010)

＜オムニバス映画「Pahenlo」＞
[Premiere]「Pahenlo」山形国際ドキュメンタリー映画祭 2007
seeing & traveling: 映像作家と美術家によるオムニバス映画
/ イメージフォーラム・シネマテーク (2010)

05 *00s 8 works*

BETWEEN YESTERDAY & TOMORROW #01 SAWANO-IKE
2008 /FHD-digital /10’
製作：SOL CHORD

[Premiere]
再生される肌理 -digital images of contemporary art- /AD&A gallery(2008)

06 *00s 8 works*

BETWEEN YESTERDAY & TOMORROW #02 Tokyo Tower
2009 /FHD-digital /5’
製作：SOL CHORD

[Premiere] 都市的知覚 / トーキョーワンダーサイト本郷 (2009)

07 *00s 8 works*

BETWEEN YESTERDAY & TOMORROW #03 The Diet Building
2009 /FHD-digital /5’
製作：SOL CHORD

[Premiere] 都市的知覚 / トーキョーワンダーサイト本郷 (2009)

08 *00s 8 works*

星座　constellation | Constellation

2009 /FHD-digital /20’
製作：SANO GALLERY
企画・構成：松本俊夫（オムニバス映画「見るということ」）
撮影：前田真二郎　池田泰教
出演：川北賀代子　本間無量　野田幸江
　　砂山典子　伊藤悠太　イトウユウヤ　坂宗一郎

EXiS 2010 EXPERIMENTAL FILM and VIDEO FESTIVAL in SEOUL(韓国・2010)

＜オムニバス映画「見るということ」＞
[Premiere]「見るということ」山形国際ドキュメンタリー映画祭 2009
第 14 回アートフィルム・フェスティバル / 愛知芸術文化センター (2009)
seeing & traveling: 映像作家と美術家によるオムニバス映画
/ イメージフォーラム・シネマテーク (2010)
トーク＆シネマ 松本俊夫の「蟷螂の斧 3 部作」/ 高松市美術館 (2012)
白昼夢 – 松本俊夫の世界「蟷螂の斧 3 部作」/ 久万美術館 (2012)
見るということ – ゼロ年代の写真と映像 / 高松市美術館 (2017)
コレクション：高松市美術館

日々 “hibi” 13 full moons | “HIBI” 13 full moons
2005 /SD-digital /96’

「時間が圧縮されて、記憶が懐かしい永遠になる」
映像は人間の永遠性と遍在性に対する願望から生まれた。
そして、アルバムや作品として記憶を構造化してきた。
前田真二郎はその記憶の構造を変えた。
太陽歴と月齢を交錯させ、時間軸を入れ替えて、一月を一日に圧縮する。
記憶の新たなリズムの構造が生まれる。
記憶は透明になり、個人の日々の事象が懐かしい永遠に変貌する。

／鈴木志郎康（詩人・映像作家）

厳密なコンセプトに基づき日常生活の撮影の位相について興味深い提言をしている。このような作品は非常に“日本的”であると感じる。作者自身は、撮影している瞬間は作品の「外部」におり、一方で、連日 15 秒撮影するという決断を全身で内包しているといった両義性がこの作品にはある。

／ジャン・ペレ（ヴィジョン・デュ・レール・ニヨン国際映画祭 ディレクター）

おそらくは映像のための映像、映像としての映像なのだろう。もちろん本作品にプライヴェート性やドキュメンタリー性を指摘することもできる。また同時代の等身大の日常生活感情や、昼夜や季節の移り変わりといった行間の差異を、鑑賞者の立場から楽しむことだってできる。しかし、そうした「効果」以上に屹立しているのが、ワンカット 15 秒間を月の運行にしたがった時間帯で毎日一年間撮り続けると決めた、作家の意志であろう。そしてその意志のとおりに、カメラ付きノートパソコンを実際に毎日操作した、作家の行為であろう。いうなれば、前田真二郎が、映像制作にあたり、何かの目的をもってこういった規則を採用したわけではない。映像の「イデア」が、映像自体を具現するため、前田真二郎という作家にこういった方法を採用させたのだ。私性のためでも記録のためでも効果のためでもない、映像のための映像が受肉したのである。

／中ザワヒデキ（美術家）

Feature film 02

日々 “hibi” 13 full moons | “HIBI” 13 full moons
2005 /SD-digital /96’
製作：SOL CHORD

[Work in progress] 映像のコスモロジー / ギャラリー 2001 (2004)
[Work in progress] indies film nagano fes.2004 /neon hall
[Work in progress]「日々」&「日和」/REMO (2004)
[Premiere] 山形国際ドキュメンタリー映画祭 2005「私映画から見えるもの」
パーソナル・ドキュメンタリーの宇宙 - スイス・アジア・ニッポン (2005)
「日々」のための音楽 by 三輪眞弘 /Intercommunication center(2005)
日々 “hibi” 13 full moons［音楽付き］/UPLINK FACTORY(2005)
アルゴリスムとからだ展 & Intercollege Computer Music Concert(2005)
イメージの庭 Vol.2 脳の中の鼓動 / せんだいメディアテーク (2006)
ヴィジョン・デュ・レール・ニヨン国際映画祭（スイス・2006）
映像レーベル「ソルコード」DVD[SC-007] 発行 : Nard,Over Clouded (2008)
現代日本映画番外編 関西からの声 / パリ日本文化会館（フランス・2011）

10s 4 works

01	BETWEEN YESTERDAY & TOMORROW #06 ITO-kun	5'
02	日々 “hibi”AUG［2008-2015］《天皇考》“HIBI”AUG [2008-2015]《THINKING ABOUT THE EMPEROR》	29'
03	住宅街 | residential area	6'
04	BETWEEN YESTERDAY & TOMORROW Omnibus 2011/2016	43'

日記映画、個人映画という枠を超えて、ある種プロジェクトを仕掛けちゃうような作品も出てきていて、例えば前田真二郎さんの『BETWEEN YESTERDAY & TOMORROW』という作品というか企画は、ある種カメラというか、映画ということに対して、世界により積極的、状況的に関わっていますよね。撮影者や制作者とは別の形で、撮る＝撮られるの関係性以外の、映画との関わり方ができる可能性があると思うんです。

/ 山下宏洋（IFF・プログラムディレクター）

ドキュメンタリーカルチャーマガジン neoneo

第 27 回イメージフォーラム・フェスティバル開催・山下宏洋インタビューより（2013）

01 *10s 4 works*

BETWEEN YESTERDAY & TOMORROW #06 ITO-kun
2011 /FHD-digital /5’
製作：SOL CHORD

web プロジェクト “BETWEEN YESTERDAY & TOMORROW”(ネット公開・2011)

＜オムニバス映画の上映・展示＞
[Premiere] 山形国際ドキュメンタリー映画祭 2011［ニュー・ドックス・ジャパン］
第 16 回アートフィルム・フェスティバル / 愛知芸術文化センター (2011)
第 4 回恵比寿映像祭「映像のフィジカル」/ 東京都写真美術館 (2012)
「ともにある Cinema with Us」in 東京 / 東京藝術学舎 (2012)
第 16 回文化庁メディア芸術祭 受賞作品展［アート部門優秀賞］
/ 国立新美術館・シネマート六本木 (2013)
イメージフォーラム・フェスティバル 2013
Japan Day“Directors Lounge” /Filmmuseum Düsseldorf（ドイツ・2013)
ARS ELECTRONICA -A New Platform for New Memories（オーストリア・2013)
文化庁メディア芸術祭 国内外巡回展 (韓国、スペイン、ロシア他・2013-2014)
福島映像祭 2013 / ポレポレ東中野
オルタ - ナラティブ｜物語の網み目に / アツコバルー (2014)
Distant Observations. Fukushima in Berlin /Kunstraum Kreuzberg/Bethanien（ドイツ・2014）
文化庁メディア芸術祭 20 周年企画展―変える力 / アーツ千代田 3331 (2016)

02 *10s 4 works*

日々 “hibi”AUG［2008-2015］《天皇考》

“HIBI”AUG [2008-2015]《THINKING ABOUT THE EMPEROR》

2016 /FHD-digital /29’

Saxophone : Junichi HAMAJI　voice over : Miki NAGATA

[Work in progress] 岐阜おおがきビエンナーレ 2015

[Premiere] イメージフォーラム・フェスティバル 2016

03 *10s 4 works*

住宅街 | residential area
2016 /UHD-digital /6’
製作：学園前街育プロジェクト実行委員会

[Premiere] 学園前アートフェスタ 2016［村田邸インスタレーション「学園前考」］

04 *10s 4 works*

BETWEEN YESTERDAY & TOMORROW Omnibus 2011/2016
2017 /FHD-digital /43’
製作：SOL CHORD
企画：前田真二郎
監督：鈴木光　大木裕之　池田泰教　崟利子

[Work in progress]
文化庁メディア芸術祭 新潟展『記憶と記録のモノ潟り』(2016)
[Premiere]
山形国際ドキュメンタリー映画祭 2017［日本プログラム］
ドキュメンタリー・ドリーム・ショー /K's cinema(2018)

前田 真二郎 ｜ MAEDA SHINJIRO

映像作家。1969 年生。

90 年代初頭より個人による映像表現に取り組む。近年は、映像メディアを「未知を発見する道具」と捉え、作者の無意識を含む「記録」を表現に展開。絵画や写真などの視覚芸術、平面表現の系譜としての映像のあり方を探求。実験映画、ドキュメンタリー、メディアアートの分野を横断して、イメージフォーラムフェスティバル、山形国際ドキュメンタリー映画祭、恵比寿映像祭等で発表。舞台や美術といった他領域のアーティストとの共同制作を積極的に進め、展覧会の企画も数多く手がけている。2005 年より映像レーベル SOL CHORD を監修。現在、情報科学芸術大学院大学［IAMAS］教授。

個展・特集上映 | Solo screening

1993
Image Forum cinematheque No.602〈前田真二郎作品集〉/ IMAGE FORUM（東京）

1996
SHINJIRO MAEDA VIDEO WORKS 1994-1996 / Seminaire Bureau（大阪）

2005
naya collective presents collection#1「日々 “hibi” 13 full moons」音楽付き
/ UPLINK FACTORY（東京）

2008
“northern state” Nerd,Overclouded 資料展〈前田真二郎 近作短編集〉
/ Bridge Gallery & Bar [FINNEGANS WAKE] 1+1（大阪）

2013
金曜上映会〈前田真二郎・ゼロ年代 短編特集〉
金曜上映会〈シネマてつがくカフェ@山形 | 前田真二郎・日々 “hibi”〉
/ 山形ドキュメンタリーフィルムライブラリー

2016
あいちトリエンナーレ主催 ALA-SCOPE 02
映像レーベル・ソルコードの作家たち〈前田真二郎作品集〉
/ アートラボあいち

2017
第 22 回 アートフィルム・フェスティバル〈前田真二郎作品集〉
/ 愛知芸術文化センター

受賞 | Prize

1992
イメージフォーラム・フェスティバル［エクスペリメンタル・イマジネーション賞］
FORGET AND FORGIVE

1993
イメージフォーラム・フェスティバル［ビデオ・オリジナリティ賞］
VIDEO SWIMMER IN BLUE

1996
RETINA IV（ハンガリー）［審査員特別賞］
VIDEO SWIMMER IN BLUE

2012
第 16 回 文化庁メディア芸術祭・アート部門 優秀賞
WEB ムービー・プロジェクト” BETWEEN YESTERDAY & TOMORROW”
SOL CHORD（前田真二郎 + 岡澤理奈）

2017
第 17 回 佐治敬三賞
モノローグ・オペラ『新しい時代』（三輪眞弘＋前田真二郎）

コラボレーション | Collaboration :

installation / performance / movie

Gold leaf paintings with video projections series（+ 安喜万佐子 / installation / 2016-)

BLACKOUT / 川口隆夫（+ 崟利子 / performance / 2011, 2018)

モノローグ・オペラ「新しい時代」/ 三輪眞弘 + 前田真二郎（performance / 2000, 2017)

Hanayashiki – Gakuenmae – Higashitoyonaka / 林勇気 + 前田真二郎 (movie / 2016)

A to Z [images on the network] / MM Lab.（+ 真下武久 / installation / 2015)

羊飼い物語 / H.584（+ 鈴木光・松島俊介 / movie /2009, 2010, 2014)

vanishing points on the road / M.electro（+ 安喜万佐子 / movie / 2014)

A to Z / MM Lab.（+ 真下武久 / movie / 2011)

shimae01 / shimae（+ 福島諭 / Audio-CD / 2004)

未だ来ぬ者を待つ家 / 真田操 + 大木裕之 + 前田真二郎 (movie / 2003)

Death Fugue / 真田操 + 前田真二郎 (movie / 2003)

遊びの名人（+ 野村誠・井上信太・森裕子・山田珠実 / performance / 2002)

Kyoto Free session (+ アオキタカマサ・Monochrome Circus 他 / performance / 2002)

宇宙の人 / 真田操 + 前田真二郎 (movie / 2001)

羊飼いプロジェクト（+ 井上信太 / movie / 1999-2014)

PIANO PROTRUDE / COSMIC WONDER（movie / 1999)

BLUES OF FAIRLY CHILDREN / COSMIC WONDER（movie / 1997)

ON50（+ 三輪眞弘・関口敦仁・赤松正行・平野治朗・布山毅 / performance / 1997）

タニ / 原神玲 + 前田真二郎 (movie /1997)

キュレーション | Curation :

exhibition / screening / concert

再生される肌理 Ⅳ / IAMAS Library Art Space (2018)

IAMAS ARTIST FILE #04 ALIMO・若見ありさ / 岐阜県美術館 (2017)

IAMAS SOUND ARCHIVE / 岐阜県美術館（2015）

再生される肌理 Ⅲ / 愛知芸術文化センター・アートスペース X（2015）

IAMAS ARTIST FILE#01 三輪眞弘「逆シミュレーション音楽の世界 / 岐阜県美術館 (2013)

BETWEEN YESTERDAY & TOMORROW / SOL CHORD ネット公開（2011）

再生される肌理 II -digital images of contemporary art-
/ 豊田市美術館市民ギャラリー（2009）

SOL CHORD SCREENING Deep Reflection [Sound & Vision Vol.3 “Reflect”]
/ ZAIM (2008)

イアマス コンテンポラリー・ミュージック コンサート / スイトピアセンター (2008)

再生される肌理 -digital images of contemporary art- / AD&A GALLERY（2008）

いまからだ - IAMAS in Tokyo [瞑想メディア] / Spiral Garden (2007)

SOL CHORD SCREENING Vol.01 / VOX HALL (2007)

ARS ELECTORONICA [Movie Line "method & Image"]
/Moviement(オーストリア・2004)

Contact:

maedashinjiro@gmail.com

http://maedashinjiro.jp/